

# 大卒教師資格（PGCE）初等・幼児低学年コース における教員養成の実際

ー バーミンガム大学を事例として ー

土 井 貴 子

はじめに

バーミンガム大学は、イングランド中西部に位置し、イギリスで第二の人口規模を擁する都市バーミンガムにあります。1900年に設立された同大学は、オックスフォードやケンブリッジに次ぐ歴史を持つ大学です。もちろん、歴史ある大学というだけでなく、バーミンガム大学教育学部は2008年の大学のランキング RAE (Research Assessment Exercise) で8位と評されるイングランドの代表的大学の一つです。

筆者は2008年9月末から2009年1月上旬まで同大学に滞在し、教員養成についていくらかの調査をおこなう機会を得ました。資料をあつめたり、関係の大学の先生にお話を伺ったり、実習校の校長先生や養成にかかわる先生にインタビューをしたり、実習生の授業を観察したりなどです。本稿では、そのときの調査をもとに幼児低学年コースに焦点をあててイギリスの教員養成の一例としてバーミンガム大学の実践例を紹介します。

近年イギリスでは、幼児教育・保育改革が急速に進められています。「すべての子どもに人生最良のスタートを」をスローガンに幼児教育・保育の拡充や多様な施設の包括的な再編に取り組んでいます。たとえば、3から5歳までの子どもたちに、学校教育に先立つ「基礎段階」として重要視される幼児教育の無償提供が実現しており、幼児教育・保育とあわせて保健や家族支援にかかわるサービスを統合的に提供するチルドレン・センターの設置が進められていま

す<sup>1</sup>。こうした改革において幼児教育・保育の質の向上は重要な課題となっています。その要は保育者にあります。優れた保育者を養成する仕組みづくりは、取り組むべき課題に位置づけられています。

## 1. 就学前教育・保育制度の概要

### (1) 就学前教育・保育機会

イギリスには、就学前の子どもたちの教育・保育を担う施設はいくつもあります。主なものだけあげておきます。①乳幼児を預かる、大半が私立の保育所 (day nursery)、②3歳から5歳までの子どもを保育する保育学校 (nursery school) や保育学級 (nursery class)、③初等学校に設けられており、就学1年前の4歳の子どもを対象としたレセプションクラス、④親をはじめとするボランティアにより運営され、主に3歳以上の子どもを半日程度保育するプレイグループ、⑤保育者が自宅で子どもを保育するチャイルド minder、⑥幼児教育・保育・家族支援・保健サービスを統合的に提供するチルドレン・センターなどです。

これらの施設で教育・保育を担う教職員もさまざまです。有資格教師、有資格保育助手、ソーシャルワーカー、ヘルス・ワーカー、チャイルド minder、プレイグループのリーダーなどです<sup>2</sup>。

### (2) 保育学校・学級、レセプションクラス

保育学校は独立した就学前学校です。一方、

保育学級・レセプションクラスは、初等学校に付設されています。これら施設に就学する4歳児は、2009年1月の時点で全体の78%です。特に、レセプションクラスへの就学は61%を占めます<sup>3</sup>。イギリスでは、義務就学は5歳からですが、4歳からの就学が一般化しています。

これらの施設での就学前の2年間(3-5歳)の教育は、「基礎段階」と位置づけられています。就学前教育のナショナル・カリキュラムはありませんが、「カリキュラム・ガイダンス」が示されており、多くの学校がそれに準じています。学習内容は初等学校以降の英語、算数、理科といった教科とは異なり、幼児の特性を重視した以下の6つの領域に分けられています。

- ・ 人格・社会性・感情の発達
- ・ コミュニケーション・言語・読み書き
- ・ 計算能力の発達
- ・ 世の中への知識と理解
- ・ 身体の発達
- ・ 創造性の発達

保育学校・学級、レセプションクラスには、学級に一人の有資格教師を配置することが義務づけられています。これら施設の教師に求められる資格は、初等教育の教師資格です。イギリスには幼児教育のみの教師資格はありません。保育学校・学級、レセプションクラスの教師になるには、初等教育の教員養成コースで学び、教師資格を取得することが必要となります。

## 2. PGCE コースの特徴

初等教育の教師資格を獲得するルートは、大きく分けて3つあります。学士課程での教員養成ルート、大学院レベルの1年制の教員養成ルート、学校に勤務しながら現職の教員から訓練を受けるルートの3つです。いずれのルートでもその課程は、ナショナル・カリキュラムの教員版といわれるカリキュラムに準拠していなければなりません。この教員養成カリキュラムを分析した富田は、期待される教師像としてコア教科に精通した教師、情報技術を活用できる教師、実践的指導力を身につけた教師、スペシャリストとしての教師、標準英語を身につけた教

師の5つを提示しています<sup>4</sup>。さらに学生が課程をおえて教師資格(Qualified Teacher Status: QTS)を取得するには、専門的資質、専門的知識、専門的技能からなる教師資格の認定基準(33項目)を満たすことが求められます<sup>5</sup>。

前述の3つの教員養成のなかで最も一般的なルートが、大学院レベルの大卒教師資格(Post-Graduate Certificate in Education: PGCE)です。PGCEでの初等教員養成には、カリキュラム段階別にいくつかのコースがあります。養成校によって設置されるコースは異なりますが、保育学級やレセプションクラスとキー・ステージ1に対応した幼児低学年コースや、キー・ステージ1・2に対応した一般初等コースなどがあります。

PGCE初等コースの入学資格要件は、英語と数学の中等教育終了一般資格(General Certificate of Secondary Education: GCSE)でグレードC以上の成績を修めていることと、学士号を持っていることです。在学期間は、フルタイムの場合1年、パートタイムの場合だと2から3年です。

1年課程の場合、教育週数は38週以上、そのうち18週以上を教育実習にあてることと定められています。学生は大学と同時に実習校でも多くの時間を過ごします。教員養成をどこが担うのか、高等教育機関なのか学校かは重要な問題です。また、教授学などの教育と教授活動の実地訓練のどちらをより重視するかも大切な問題です。イギリスでは、1990年代の一連の教員養成改革によって、学校での教員養成と教室で求められる実践的な指導力の育成により重点が置かれるようになりました<sup>6</sup>。

PGCEでは、課程を修め、英語、数学、情報コミュニケーション技術(ICT)の教師資格の技能テスト(QTS skills tests)に合格すると教師資格を取得できます。学位は取れませんが、修了資格(Postgraduate Certificate in Education)を取得できます。さらに1年間かけて働きながら論文をまとめると修士号の取得も可能です。

### 3. バーミンガム大学 PGCE コースの実際

バーミンガム大学の PGCE は、フルタイム 1 年間の教員養成課程です。初等教育の教員養成コースと中等教育の教員養成コースの両方を持っています。

初等コースの定員は約90名です。2008-9年には92名の学生が在籍していました。バーミンガム大学の PGCE 初等コースの入学要件は、通常より少し厳しく設定されています。2.1以上の優等学位を持っていることと、英語、数学、科学の3教科で GCSE グレードC以上の成績を修めていること、初等学校で少なくとも5日以上の教育経験を有することが要件となっています<sup>7</sup>。

在籍する学生の経歴はさまざまです。学士課程を修了してそのまま PGCE コースで学ぶ学生も多くいますが、社会人入学生もいます。市の職員を辞めて入学した学生、教育学以外の博士号をもち子どもの教育に携わろうとふたたび学ぶ学生、学校でアシスタントを努めていたけれども教師資格を取得しようと学ぶ学生などです。また、初等コースの学生は、比較的女性が多いようです。

初等コースは、2つのコースに分かれます。3歳から7歳を対象とする幼児低学年コースと、5歳から11歳までの一般初等コースです。

2008-9年のコース教員は12名でした。この12名で授業科目を担当します。学生には個別にチューターが割り当てられています。チューターは、学習にかかわる相談に応じたり、学生の実習を観察・評価したり、実習後の個別指導等をおこないます。

コースは9月の第2週から始まり、7月はじめに終わります。1年間という短い期間であるため始期が早く、通常の大学の学期とは異なる日程になっています。3学期制を採用しており、

1学期は12月上旬までの15週間です。

#### (1) カリキュラム

幼児低学年コースの6-7週の時間割を示したのが表1です<sup>8</sup>。表の通り、講義科目は初等教育のナショナル・カリキュラムに対応しています。コア教科である英語・算数・理科は、教員養成でも必修科目です。特に英語と算数は1年間を通じて学びます。電子黒板を学校に導入しているイギリスでは、ICTも必修科目です。ICTの習得は、欠かせません。その他に後述する教職研究(Professional Studies)を加えた5科目が主要な教科です。必修ではありませんが、体育や宗教教育、ナショナル・カリキュラムの基礎科目である芸術、音楽、歴史も学びます。ただし、これら科目の授業時数はわずかです。幼児コースの場合、幼児教育(Early Years)も学びます。幼児教育の内容については後述します。

必修科目である英語について具体的にみていきます。2008-9年の幼児低学年コース英語は、ハンドブックによれば、全16回でした(105分授業)<sup>9</sup>。授業は講義とディスカッションで構成されます。授業内容によっては、理解を深めるためや活発なディスカッションを展開するために参考図書を読んでもくことや課題をやることが求められます。

授業内容は、授業の計画・実施・評価やICTの活用といった教科の教授法、読むことや書くこと、話すことや聞くこと、物語や詩やドラマなどの教科の内容、実習の事前事後指導に整理できます。教科教育に欠くことのできない基礎的な内容が盛り込まれているといえるでしょう。また基礎段階の幼児を対象とした書くことや読むこと、幼児の言葉の発達など幼児教育に特化した内容も含まれています。

表1 6-7週のタイムテーブル

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
9.15-11.00	理 科	教育実習	教育実習	教職研究	算 数
11.15-1.00	宗教教育			英 語	
2.00-3.45	教職研究			体 育	

授業の評価は、3000字の小論文（2008-9年の課題「教育実習1での読むことの授業の分析」と授業中2回にわたっておこなわれる教科知識の考査で判定されます。

シラバスには、目的、講義予定、各回の講義内容・教科知識・参考文献・到達目標にくわえて、関連する教師資格の認定基準が示されています。英語の場合、授業に参加し、実習中の課題や自己学習の課題、上述の評価にかかわる課題を果たすことで、教師資格の認定基準33項目のうち7項目の専門的資質・知識・理解・技能の習得をめざしています。

また小論文は、授業評価だけでなく、外部試験官による教師資格取得の評価対象にもなっています。

## (2) 幼児低学年コース特有の教育内容

幼児低学年コースのカリキュラムは、一般初等コースのそれと多少異なります。たとえば、幼児教育（Early Years）<sup>10</sup>という科目が開講されています。

イギリスにおいても幼児期の発達理解や幼児期の教育における遊びの重要性、環境構成の必要性、幼児期の生活経験の理解などが幼児教育の基本とされています。幼児を対象とした効果的な教育を実践するためには、適切なカリキュラムの理解と実践、子どもの理解と適切な応答、計画的で目的をもった活動の展開と適切な関わりが求められます。

幼児低学年コースでは、幼児教育という科目を設け、個々の発達段階を十分考慮し、幼児の効果的な学習を計画できる基礎理論についての基本的知識の提供、幼児教育のアプローチやパースペクティブへの洞察力の提供、見解や最良の実践の省察と共有をめざしています。

到達目標は次の4つです。

- ・ 3歳から7歳の子どもたちの発達を理解している。
- ・ 子どもたちの発達段階の観点からカリキュラムを分析できる。
- ・ 基礎段階のカリキュラムを教授する技能と知識を獲得している。

・ 幼児の効果的な環境に寄与する諸側面を概観できる。

授業で取り扱われるテーマは、幼児教育の原理や遊びを通じた学習といった幼児教育の基本に関する内容、人格・社会性・感情の発達、世の中への知識と理解、身体の発達と屋外での遊び、創造性の発達といった基礎段階のカリキュラムの内容、カリキュラムの立案やカリキュラムへのアプローチ、観察・評価・記録、教育上の特別な要求、学級での行動、保護者や同僚保育者との協働といった教授法に関する内容などです。

幼児教育の授業は、1学期の終わりから始まり、全12回で構成されています。他の教科の授業時数と比較すると、英語、算数に次いで多くの授業時間が割り当てられています。幼児教育は各養成校の裁量で開設されている科目ですが、幼児低学年コースでは重要な科目として位置づけられているといえるでしょう。

## (3) 教育実習

学校での実習期間は、大学での授業時間よりも多くなっています。1学期65日（13週）中33日は終日、学校での実習です。1学期はガイダンスも含まれるので大学での授業と実習とが半々ですが、2・3学期の実習は55日（11週）中33日にもなります。教育実習はどのようにおこなわれているのでしょうか。

教育実習は学期に1回ずつ、全部で3回組まれています<sup>11</sup>。いずれも実習は9週に渡ります。前半4週は2日（火曜日と水曜日）を実習校で過ごし、残りの3日は大学で授業を受けます。後半の5週は、月曜日から金曜日まで学校での実習です。

実習校は、異なるタイプの学校が選ばれることになっています。幼児低学年コースの場合、1学期の実習はキー・ステージ1で、2学期の実習は保育学校・学級で、3学期の実習はレセプションクラスでおこないます。2008-9年は近郊の80の学校と連携し、実習をおこなっています。

実習の内容は、おおよそ決まっています。配

属学級の観察から始まり、担任の先生との指導、グループの指導、そして授業すべての担当へと段階的に進んでいきます。指導には、計画・実践だけでなく、点検・評価も含まれます。

その他に、大学の授業科目である教職研究、英語、算数、理科、ICT のそれぞれにおいて課題が設定されています。学生は実習期間中に課題に取り組み、完成させることを求められます。課題は大学に持ち帰り、それぞれの授業で検討されます。

実習は原則として複数一組でおこないます。通常は2人一組で学級に配属されます。実習中の学生同士の学びあいや協働がめざされています。パートナーとよい関係を築くことが求められ、議論をし、考えを共有することや、お互いの強みや弱点を理解すること、相手の経験から学ぶことが指導されます。

学生を2人一組で実習に送り出す理由は、学校の授業形態も関係しています。イギリスの初等学校では、大半の授業でグループごとの学習が組み込まれています。導入は一斉授業ですが、その後はグループごとに異なる課題に取り組みます。グループごとの学習は多くの場合一斉ではなく、児童一人ひとりが個別に課題に取り組みます。指導にはアシスタントが加わり、担任とともに複数で児童一人ひとりを見ていきます。学生は、こうしたグループごとの個別指導をパートナーと協力しておこないます。

学生による授業は、実習3週目のグループ指導の計画、実施から始まります。後半の5週にわたる教育実習では、一人で授業を担当することが求められます。それも英語と算数の授業を週2回ずつ担当することが決められています。その他に理科と体育の授業を実習期間中にそれぞれ2回担当します。学生は5週間の教育実習で最低でも24回授業をおこなうこととなります。

もちろん毎回授業計画をたてます。授業のねらい、ナショナル・カリキュラムにおける位置、子どもたちの事前の学習状況、到達目標や評価対象・評価点・評価方法の設定、導入・展開・まとめからなる授業概要を事前に策定します。

授業後は、目標を達成できたか、教授技術はどうであったか、学級における行動管理はどうであったかを自己評価します。

この他にもパートナーの担当する授業に毎回アシスタントとして参加し、協力してグループごとの学習を進めることが求められます。アシスタントとして参加した授業も、自己評価します。学生は、教育実習中週あたり4-5回の授業を主で担当し、アシスタントとしてさらに4-5回授業を担当することになります。

ただし、これらの学生による授業は、担任教師あるいはメンターと呼ばれる実習担当教師が毎回観察し、指導・評価するわけではありません。場合によっては、担任教師は他の業務をおこない、学生による授業のあいだ教室にさえないこともあります。2回だけですが、筆者が観察した授業では、いずれも担任教師は不在で学生が自由に授業を展開していました。

学生による授業の観察・評価は、実習中に3回おこなわれます。うち2回は実習担当教師が、1回は大学の担当チューターがおこないます。評価の観点は決まっており、教師資格の認定基準に基づいています。項目は、専門的な態度、専門的知識・理解、計画・事前の予測・目標、監督・評価、教授・学級運営、成果と課題の6つからなっています。それぞれにコメントをつけ、水準を満たすかどうかを判定します。授業後、評価にもとづき学生を指導します。

学生は、多くの授業を経験していくなかで教室で求められる実践的指導力を身につけていくといえるでしょう。では、教育実習と大学の授業はどのように結びついているのでしょうか。

#### (4) 教職研究

教育実習と大学での授業を結びつける授業科目が教職研究です<sup>12</sup>。教授・学習過程を分析する力の育成や、教師資格の認定基準に示されている専門的な要件を広く満たすことをめざしています。

教職研究で扱うテーマは、授業の計画・準備、子どもの学習、教育上の特別な要求、教室の積極的な雰囲気作り、観察と評価、統合教育、個

人差、協働、機会の均等、教科を横断する課題、学校全体の教育問題です。授業は講義とディスカッションを中心とするグループ活動で構成されます。年間での授業回数はどの教科よりも多く25回です。この授業を担当するのは、PGCE 初等コースの中核的な教員である3名の教師です。

バーミンガム大学のPGCEコースは、「反省的実践家」としての教師の育成を掲げています。学校での教育実習の実践を振り返り、自らの実践について内省する機会を確保し、分析に必要な力を育成することを目指すこの授業は、バーミンガム大学PGCEコースで養成しようとする教師に求められる資質・能力の核を育成する授業と位置づけることができます。しかしながら、その実態と効果の検証は、より詳細な観察と検討が必要です。今後の課題です。

#### おわりに

バーミンガム大学におけるPGCE初等・幼児低学年コースの教員養成についてみてきました。

リチャード・オールドリッチは、「教師は教育活動の中心に位置するものであり、それゆえに高い資質と能力をもった教師は優れた教育の要である」と述べています。優れた教師の確保は、教員養成における質の高い教育や訓練に影響されます。オールドリッチは、優れた教師の育成には、教育つまり高等教育機関で受ける教育に関する知的な訓練と、学校現場で熟練教師の監督のもとに実習という形でおこなわれる教師の訓練の両方が必要であると指摘しています<sup>13</sup>。

バーミンガム大学のPGCEコースでは、前述の通り「反省的実践家」としての教師の育成をめざしています。それには、オールドリッチのいう教育と訓練のパートナーシップが不可欠です。自分の実践を振り返り、分析できるだけの理論的枠組みを持っていなければなりません。しかしながら教育の歴史、哲学、社会学や幼児低学年コースの場合幼児教育学といった基礎的な学問を単独で学ぶ時間の確保は難しいです。既存の授業科目にどれだけこれらの基礎的な学

問が組み込まれているかは詳細にみていかなければなりません。教職研究の授業を中心とした教育と訓練のバランス確保や、大学の授業と実習との相互補完がいつそう求められるでしょう。

最後に、筆者が観察した幼児低学年コースの学生の教育実習の様子を紹介します。観察したのは学部教育もバーミンガム大学で受け、社会学の学士号を取得後、PGCEコースに入学し教師資格の取得をめざす優秀な女子学生でした。彼女は、教科の内容に関する適切な専門的知識・技能をもち、教室をコントロールする力も十分に有していました。大学のチューターによる観察・評価対象の授業であったこともあり、じゅうぶんに授業準備をしており、子どもたちは落ち着いて学んでいました。チューターである大学の教員によれば、彼女は極めて優秀な学生であるとのことでした。すべての学生ではないにしても、少なくともコア教科に精通し、情報技術を活用でき、実践的指導力を身につけた教師の育成はできていると評価できるでしょう。

<sup>1</sup> 中村勝美「イギリスにおける保育制度の過去と現在—歴史的多様性をふまえた統合的保育サービスの構築—」『西九州大学紀要』第37号、103-120頁、2007年。埋橋玲子「人的資源とクオリティ・コントロール—実用主義と思考の最先端—」泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店、2008年。埋橋玲子『チャイルドケア・チャレンジ—イギリスからの示唆—』法律文化社、2007年。

<sup>2</sup> 楠瑞希子「イギリスの保育と保育者養成の新動向」『聖徳大学研究紀要』短期大学部、第28号（I）、85-93頁、1995年。

<sup>3</sup> *Statistics of Education: Provision for children under five years of age in England*, January 2009.

<sup>4</sup> 富田福代「新しい英国教員養成改革の動向—1998年教員養成ナショナル・カリキュラムの分析—」『カリキュラム研究』第8号、45-57

頁、1993年。イギリスの教員養成、PGCE についての研究はいくつかあります。梶井一暁「現代の教育ニーズをふまえた教員養成—大学と小学校のパートナーシップに基づく教育の専門家養成に向けて—」『大学教育の国際化加速プログラム研究報告書』2009年。米川秀樹・富田福代「イギリス」日本教育大学協会『諸外国の教員養成等に関する研究プロジェクト』35-74頁、2003年。山崎洋子「現代イギリスの教員養成における動向と特質—学校基盤／パートナーシップ／校長のリーダーシップ／教職の専門性—」『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要』第19号、53-63頁、2004年。

<sup>5</sup> *Guidance to Accompany the Standards for Qualified Teacher Status (QTS)*, 2007.

<sup>6</sup> R. オルドリッチ著、松塚俊三・安原義仁監訳『イギリスの教育—歴史との対話—』玉川大学出版部、2001年の第4章「教育の質」を参照。

<sup>7</sup> University of Birmingham, School of

Education, *PGCE Primary Student Handbook*, 2008/2009.

<sup>8</sup> University of Birmingham, School of Education, *PGCE (Primary and Early Years) Timetable, 2008/2009, term one*.

<sup>9</sup> University of Birmingham, School of Education, *PGCE Primary English Handbook (Early Years)*, 2008/2009.

<sup>10</sup> University of Birmingham, School of Education, *PGCE Primary, Early Years Handbook*, 2008/2009.

<sup>11</sup> University of Birmingham, School of Education, *PGCE Primary, Handbook for School Experience one*, 2008/2009.

<sup>12</sup> University of Birmingham, School of Education, *PGCE Primary, Professional Studies Handbook*, 2008/2009.

<sup>13</sup> 前掲書、オルドリッチ『イギリスの教育』95頁。